

新潟県の地震概況 令和7年(2025年)1月

令和7年2月7日

新潟地方気象台

【1月の地震活動概況】

この期間、県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回(最大は震度3)でした。新潟県とその周辺(図1)で発生した地震で、県内で震度1以上を観測した地震は3回でした。(「期間内に発生した主な地震」を参照)

【1月に新潟県周辺で発生した地震】

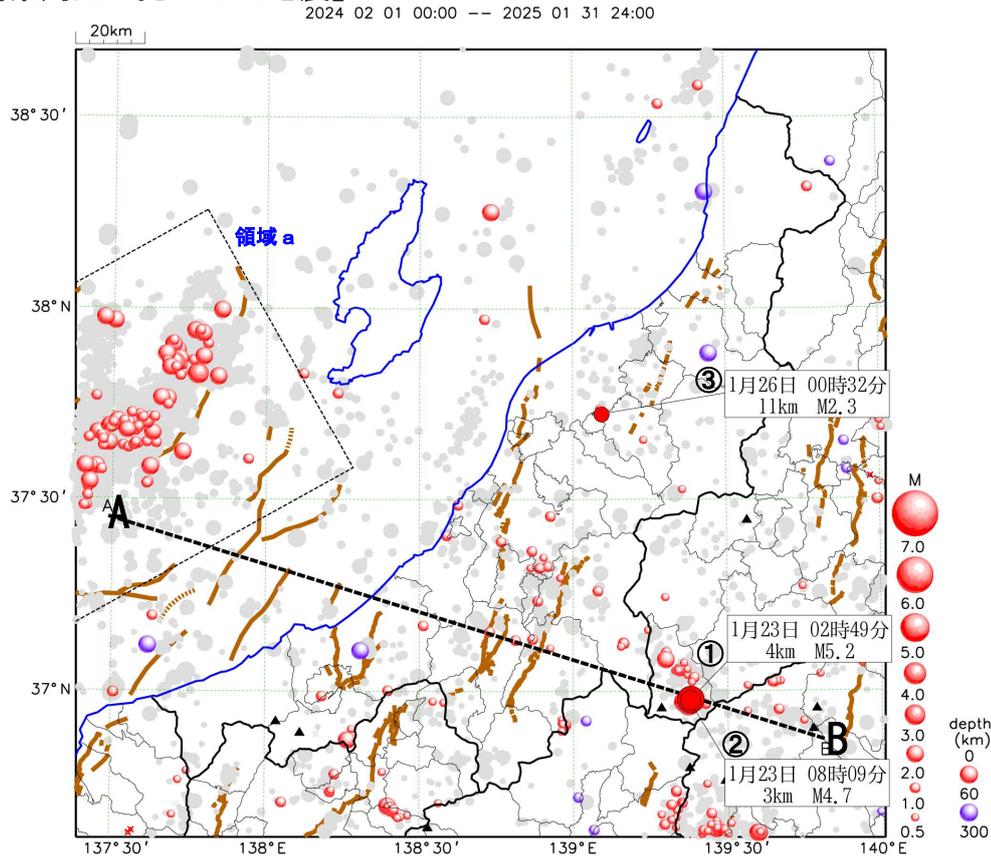


図1 震央分布図(深さ0~300km、M0.5以上)

※過去1年間の地震を表示。令和7年1月に発生した地震を赤又は青、それ以前はグレーで示した。

※図中の茶色線は地震調査研究推進本部で長期評価されている活断層を示す。

※図中の▲は活火山を、✕は深部低周波地震を示す。

※領域 a は令和6年能登半島地震の活動域を示す。

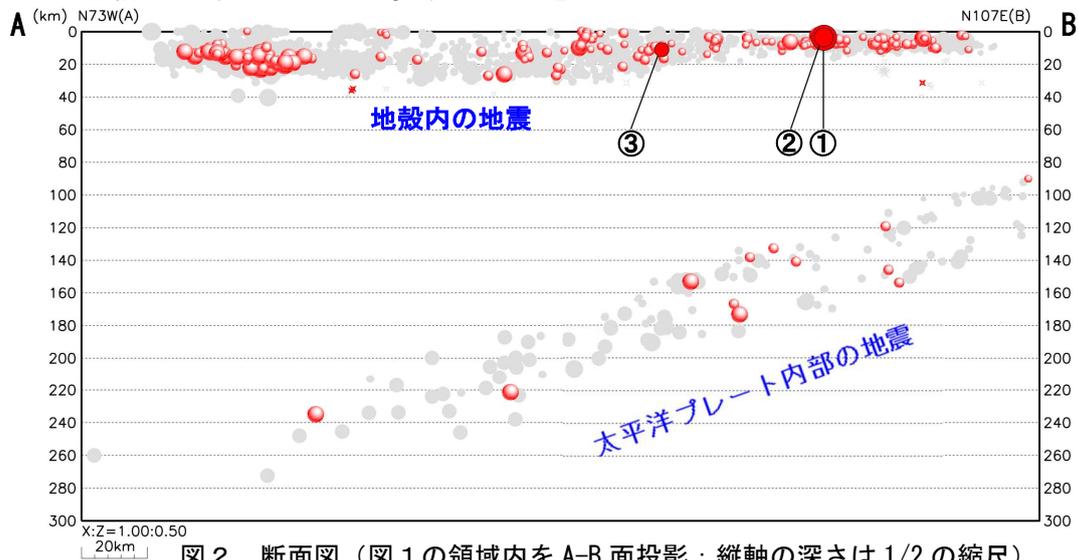


図2 断面図(図1の領域内をA-B面投影:縦軸の深さは1/2の縮尺)

【期間内に発生した主な地震】

① 23日02時49分 福島県会津の地震 (M5.2、深さ4km) により、福島県で震度5弱を観測したほか東北地方南部、関東甲信地方、新潟県及び石川県で震度4～1を観測しました。新潟県内では南魚沼市で震度3を観測したほか、県内広い範囲で震度2～1を観測しました。また、②23日08時09分に発生した地震 (M4.7、深さ3km) でも、新潟県内で震度2～1を観測するなど、福島県会津では21日頃から地震活動が活発な状況が続いています。この地震は地殻内で発生しました。

1997年10月以降の活動をみると、この付近では度々地震活動が活発になった場所が有り、2021年7月にはM4.7、M4.6の地震により、福島県で震度3を観測したほか、新潟県内では中越地方を中心に震度2～1を観測しています。

③ 26日00時32分 新潟県中越地方の地震 (M2.3、深さ11km) により、新潟市南区で震度1を観測しました。この地震は地殻内で発生しました。

○令和6年能登半島地震

令和6年能登半島地震の地震活動は、2020年12月から約4年間続いています。1月1日に発生したM7.6の地震から1年以上が経過し、地震の発生数は増減を繰り返しながら、大局的には緩やかに減少してきていますが、11月26日にM6.6の地震が発生するなど、令和6年能登半島地震の活動域及びその周辺では、依然として地震活動は活発な状態です。

1月中の最大規模の地震は、16日21時22分 (最大震度3) に発生したM4.1の地震です。震度1以上を観測した地震は12回発生^(注1) しており、その内、新潟県で震度を観測した地震はありませんでした。

注1) 震度1以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する場合があります。

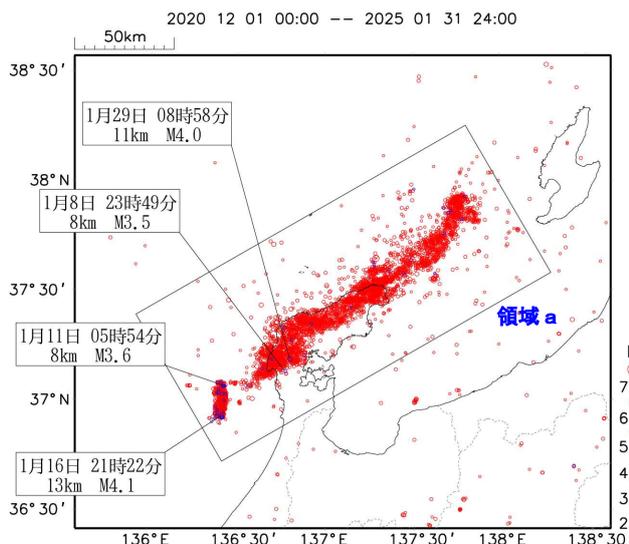


図4 震央分布図 (深さ0~30km, M2.5以上)

- ・ 図4の吹き出しは2025年1月に発生した、最大震度3以上の地震又はM3.5以上の地震
- ・ 図5の左側縦軸はマグニチュード、右側縦軸は地震の積算回数
- ・ 2020年12月~2024年12月に発生した地震を赤色、2025年1月を青色で示した

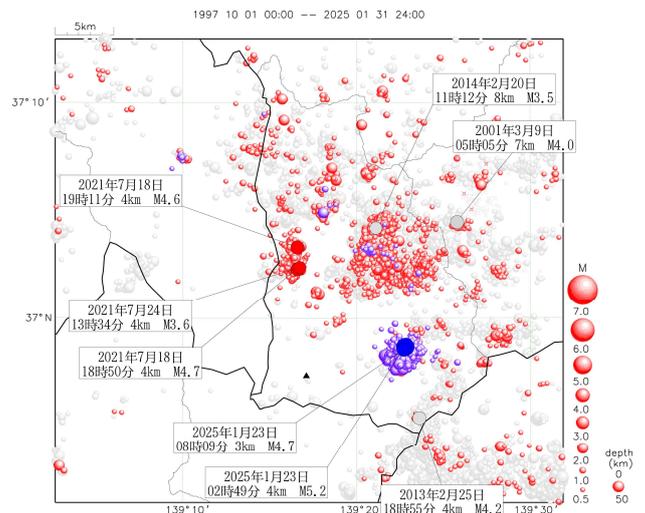


図3 震央分布図 (深さ0~50km, M0.5以上)
 ※吹き出しは新潟県で震度を観測した地震
 ※1997.10以降の地震を表示。2025.1に発生した地震を青、2021.1以降を赤、それぞれ以前はグレーで示した。

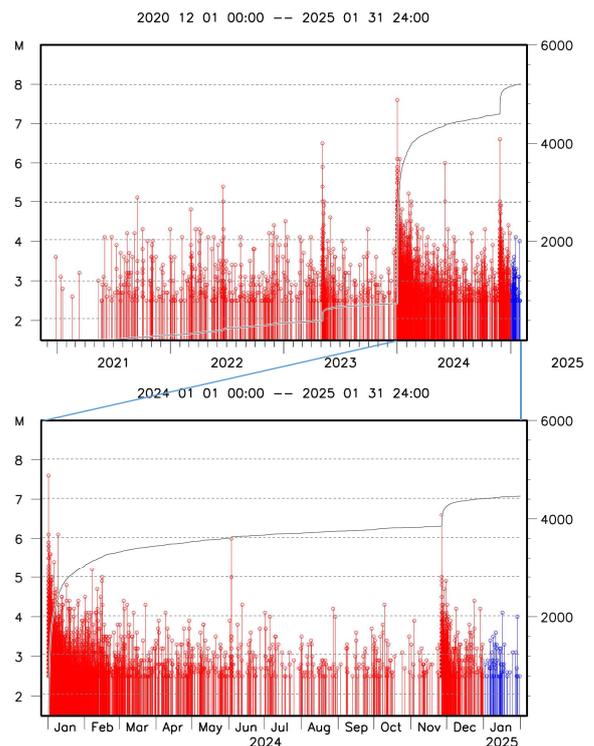


図5 図4の領域a内の活動経過図及び回数積算図

【新潟県内で震度 1 以上を観測した地震】 期間 2025年 1月 1日～2025年 1月31日

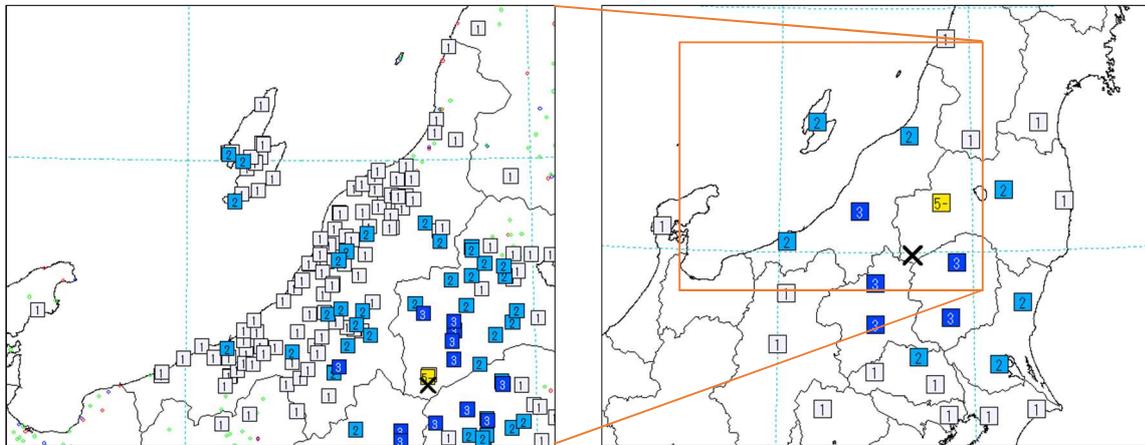
地震の発生日時（年/月/日/時:分）	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	全国最大震度
各地の震度 * は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点						
① 2025年01月23日02時49分	福島県会津	36° 58.6' N	139° 22.8' E	4km	M5.2	5弱
2025年01月23日02時49分	福島県会津	36° 58.6' N	139° 22.8' E	4km	M2.4	
2025年01月23日02時49分	福島県会津	36° 58.6' N	139° 23.0' E	5km	不明	
※近接した地域で連続して地震が発生したため福島県会津では震度の分離が出来ませんでした。						
震度 3：南魚沼市六日町						
震度 2：上越市木田*、長岡市山古志竹沢*、長岡市中之島*、三条市新堀*、小千谷市旭町*、加茂市幸町*、十日町市松代*、魚沼市下折立、魚沼市今泉*、魚沼市須原*、南魚沼市塩沢小学校*、南魚沼市浦佐*、南魚沼市塩沢庁舎*、阿賀町豊川*、阿賀町白崎*、佐渡市相川三町目、佐渡市河原田本町*、佐渡市小木町*						
震度 1：糸魚川市一の宮、糸魚川市大野*、糸魚川市能生*、上越市中ノ俣、上越市大手町、上越市安塚区安塚*、上越市蒲川原区釜淵*、上越市牧区柳島*、上越市柿崎区柿崎*、上越市大潟区土底浜*、上越市頸城区百間町*、上越市吉川区原之町*、上越市中郷区藤沢*、上越市清里区荒牧*、上越市三和区井ノ口*、上越市大島区岡*、上越市板倉区針*、上越市名立区名立大町*、妙高市田町*、妙高市栄町*、長岡市幸町、長岡市寺泊一里塚*、長岡市千手*、長岡市浦*、長岡市上岩井*、長岡市小国町法坂*、長岡市小島谷*、長岡市寺泊敦ヶ曾根*、長岡市寺泊烏帽子平*、長岡市東川口*、長岡市与板町与板*、長岡市中央公園*、三条市西裏館*、三条市荻堀*、柏崎市西山町池浦*、柏崎市高柳町岡野町*、柏崎市日石町*、小千谷市城内、十日町市下条*、十日町市千歳町*、十日町市上山*、十日町市水口沢*、十日町市松之山*、見附市昭和町*、田上町原ヶ崎新田*、出雲崎町米田、出雲崎町川西*、湯沢町神立*、津南町下船渡*、刈羽村割町新田*、魚沼市堀之内*、魚沼市穴沢*、魚沼市小出島*、魚沼市大沢*、新発田市乙次*、村上市山口*、村上市岩船駅前*、村上市府屋*、燕市秋葉町*、燕市分水桜町*、五泉市村松乙、五泉市愛宕甲*、五泉市太田*、聖籠町諏訪山*、弥彦村矢作*、関川村下関*、阿賀野市畑江、阿賀野市岡山町*、阿賀野市山崎*、阿賀野市姥ヶ橋*、阿賀野市かがやき*、阿賀町鹿瀬支所*、阿賀町津川*、新潟北区東栄町*、新潟空港、新潟東区下木戸*、新潟中央区美咲町、新潟江南区泉町*、新潟秋葉区程島、新潟秋葉区新津東町*、新潟南区白根*、新潟西区寺尾東*、新潟西蒲区役所、新潟西蒲区巻甲*、佐渡市相川金山、佐渡市岩谷口*、佐渡市両津湊*、佐渡市松ヶ崎*、佐渡市千種*、佐渡市畑野*、佐渡市羽茂本郷*、佐渡市真野新町*、佐渡市赤泊*、佐渡市相川栄町*、佐渡市両津支所*、佐渡市新穂瓜生屋*						
② 2025年01月23日08時09分	福島県会津	36° 58.5' N	139° 22.7' E	3km	M4.7	4
震度 2：南魚沼市六日町、阿賀町豊川*						
震度 1：上越市木田*、長岡市小島谷*、長岡市山古志竹沢*、長岡市中之島*、三条市新堀*、小千谷市旭町*、加茂市幸町*、見附市昭和町*、魚沼市下折立、魚沼市今泉*、魚沼市須原*、魚沼市大沢*、南魚沼市塩沢小学校*、南魚沼市浦佐*、南魚沼市塩沢庁舎*、新発田市乙次*、阿賀野市岡山町*、阿賀野市姥ヶ橋*、阿賀町白崎*、阿賀町津川*、新潟北区東栄町*、新潟秋葉区新津東町*、佐渡市相川三町目、佐渡市千種*、佐渡市河原田本町*						
③ 2025年01月26日00時32分	新潟県中越地方	37° 43.4' N	139° 05.6' E	11km	M2.3	1
震度 1：新潟南区白根*						

【震度分布図】

図中 ○ は震度観測点を示す

① 23日02時49分 福島県会津
観測点別震度分布図

地域別震度分布図

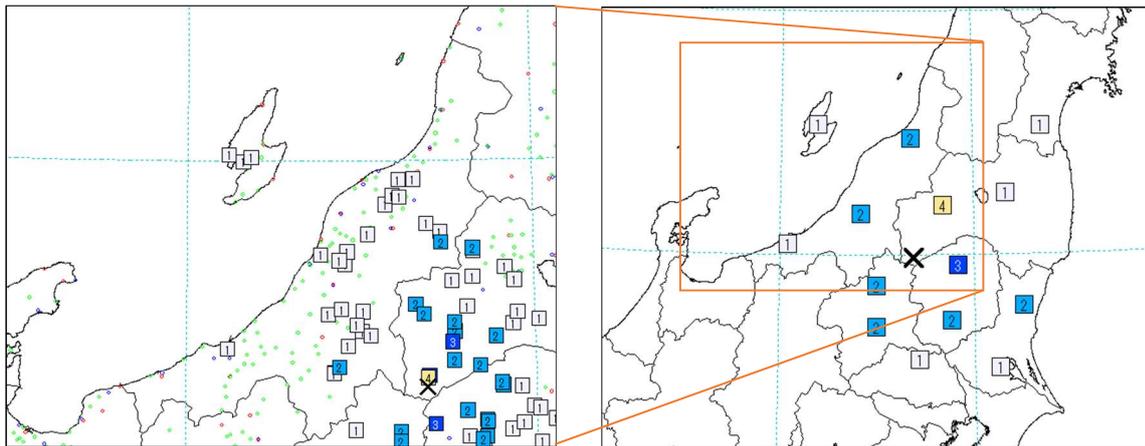


7	震度 7
6+	震度 6強
6-	震度 6弱
5+	震度 5強
5-	震度 5弱
4	震度 4
3	震度 3
2	震度 2
1	震度 1

× は震央

② 23日08時09分 福島県会津
観測点別震度分布図

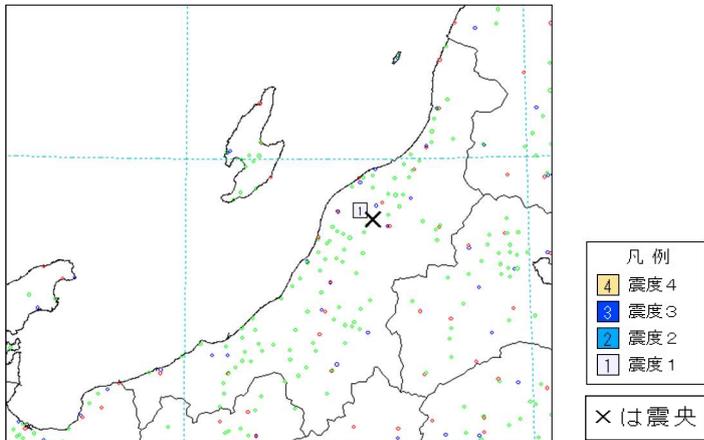
地域別震度分布図



4	震度 4
3	震度 3
2	震度 2
1	震度 1

× は震央

③ 26日00時32分 新潟県中越地方
観測点別震度分布図



4	震度 4
3	震度 3
2	震度 2
1	震度 1

× は震央

【新潟県内で最大震度 1 以上を観測した月別・震度別地震回数表】

年	2024 年												2025	合計
	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月		
震度 1	6	7	1	2	6	6	2	0	3	6	4	1	44	
震度 2	4	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	10	
震度 3	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	6	
震度 4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
震度 5 弱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
震度 5 強	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
震度 6 弱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	13	8	3	2	8	7	3	0	3	7	4	3	61	

【過去の地震・津波災害から学ぶ】

○2024年は新潟地震から60年、新潟焼山火山災害から50年、平成16年(2004年)新潟県中越地震から20年という、災害の発生から節目の年でした。県内に「防災・減災 新潟プロジェクト 2024」が立ち上がり、気象台も参加しています。 <https://www.hrr.mlit.go.jp/project2024/>

※気象台ではこの活動の取組の一つとして、これらの特設サイトを開設しました。(令和6年4月26日)
過去の大災害から学び、日頃から地震や津波、火山噴火への備えを心がけると共に、防災教育等にもご活用ください。



新潟地方気象台HPのトップページで各サイトへのリンクを掲載しています。

【令和6年能登半島地震の各種資料】

○令和6年能登半島地震の関連情報

関連報道発表等の地震関連情報の他に、被災地向けの気象支援資料なども掲載されています。

https://www.jma.go.jp/jma/menu/20240101_noto_jishin.html

令和6年1月 地震・火山月報(防災編)に特集ページとして掲載されています。

<https://www.data.jma.go.jp/egev/data/gaikyo/monthly/202401/202401index.html>

令和6年能登半島地震の地震活動と防災事項ポータルサイト

<https://www.data.jma.go.jp/kanazawa/shosai/notojishinportal.html>

注) 利用にあたって

- 資料は速報であり後日の調査により変更されることがあります。
- 新潟県内で震度1以上を観測した地震の一覧表の震度は、県内のみを記述しています。また、最大震度は、県内または県外での値を記述しています。
- 気象庁では地震の震源、マグニチュード等を算出するにあたり、国立大学法人などの関係機関から地震観測データの提供を受け(注1)、文部科学省と協力して処理を行っています。また、震度の情報は、地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供された観測データを含めて発表しています。

(注1) 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

- この地震概況は新潟地方気象台ホームページの地震解説資料・地震概況のページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/niigata/jishin/jishin_kaisetu_index.html
- 資料についての問い合わせ先：新潟地方気象台電話：025-281-5872

【地震・津波一口メモ】 「令和6年度能登半島地震」に関する「地震調査委員長見解」を公表

2024年1月1日に発生したマグニチュード7.6の地震から約1年が経過したことなどを踏まえ、地震調査委員会としての情報発信をより強化するために、「地震調査委員長見解」を令和7年1月15日に公表しました。その一部を抜粋して紹介します。

○ 概要

石川県能登地方では、2020年12月から地震活動が活発になっており、活動当初は比較的規模の小さな地震が継続する中、2022年6月にM5.4の地震（最大震度6弱）、2023年5月にM6.5の地震（最大震度6強）などの規模の大きな地震が発生し、2024年1月には、一連の活動の中で最大規模の地震であるM7.6の地震（最大震度7）が発生しました。

2023年12月までの地震活動の範囲は能登半島北東部の概ね30km四方の範囲でしたが、M7.6の地震の直後からの地震活動は非常に活発になり、北東－南西に延びる150km程度の範囲に広がりました。

その後、M7.6の地震の地震活動域では、時間の経過とともに活動が徐々に低下してきていますが、そのような中で2024年6月にM6.0の地震（最大震度5強）、11月にM6.6の地震（最大震度5弱）が発生するなど、引き続き規模の大きな地震が発生しています。

今回の地震活動のように、数年にわたって続く上に、M7.6の地震に加えてM6.6、M6.5のようなM6クラスの規模の大きな地震が何度も発生するような陸・沿岸域の地震活動は、日本ではこれまでに観測されたことはありません。

○ 防災上、留意して頂きたいこと

2020年12月からはじまった地震活動は、数カ月から年単位など長い期間で見ると、全体としては2024年1月のM7.6の地震以降低下しつつあります。

しかし、依然として地震活動が活発であることや地殻変動も継続していることを踏まえると、月単位では、現時点程度の活発な地震活動が当分継続することが予想されます。加えて、時々大きな地震が発生し、さらに活発になることもあります。

一連の活動の中では、既に2024年1月にM7.6の地震、11月にM6.6の地震が発生するなど規模の大きな地震が発生していますが、日本海側では平成5年（1993年）北海道南西沖地震（M7.8）のように、最大規模の地震発生から数年程度経った後も、M6程度の地震が発生した事例があります。また、能登半島の周辺では、今回の2020年12月からの一連の地震活動以前にも「平成19年（2007年）能登半島地震」など、M6程度以上の被害を伴う規模の大きな地震が発生しています。

これらのことを踏まえると、M7.6の地震後の活動域及びその周辺では、地震の規模やお住まいの地域によっては今後も当分の間、強い揺れに注意が必要です。

また、海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意する必要があります。改めて、日頃からの地震への備えを確認することが大切です。

○ 詳細資料は、地震調査委員会のホームページに掲載しています。

https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2024_noto_kenkai.pdf

※ 地震調査委員会は、気象庁も参画する政府の機関「地震調査研究推進本部（地震本部）」の組織の一つで、地震に関する観測、測量、調査又は研究を行う関係行政機関、大学等の調査結果等を収集し、整理し、及び分析し、並びにこれに基づき総合的な評価を行っています。